

第45回陸奥新報社賞特集

県民の健康寿命延伸へ

津軽地方の豊かな郷土づくりに功績のあった個人、団体を顕彰する第45回陸奥新報社賞は、弘前大学健康未来イノベーション研究機構（弘前大COI-NEXT＝以下弘前大COIネクスト）に贈られる。世界に類を見ない健康ビッグデータを集積する大規模合同住民健診「岩木健康増進プロジェクト」（以下岩木健診）を展開。20年以上にわたる蓄積データを核に、産学官民連携の拠点として県民の健康寿命延伸や地域活性化につながる研究成果の創出、社会実装を実現してきた。顕彰式は9月1日午前11時から、弘前市の弘前パークホテルで行われる。（稲葉智絵）

顕彰式

弘前大学健康未来イノベーション研究機構



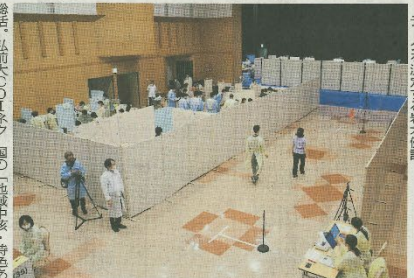
弘前大COIネクストの最大の強みである健康ビッグデータを集めているのが、2005年に弘前市岩木地区旧岩木町で始まった岩木健診だ。24年度から対象を市全体に拡大。20歳以上の住民延べ約3万人分のデータを蓄積する。岩木健診は一般的な

20年以上データ蓄積

村下公一機構長

「魅力的な地域にしたい」

村下公一機構長（副学長・教授、グローバルWCOI-BeW研究センター）は、地域研究の蓄積は「地域の皆さんの誇りがなければ、今の弘前大COIネクストは存在せず、世界に類を見ないビッグデータを蓄積するとはできなかった」と、深い感謝の気持ちを表した。岩木健診は大手企業や他大学などが次々に参画し、独自の検査項目を開発している。その実態は「健康に関する山」と称される。弘前大COIネクストの「地域中核・特色ある研究」を推進する事業責任者として先頭に立ち、JIPRAKS（ジェイピーアールエス）の国内外が採択を受け、今年度から注目するプロジェクトに参画させた。「産業界や経済界の理解、データサイエンスの活用など、社会的にインセンティブが働き、研究の一大拠点の構築にプロジェクトの価値を高め、弘前大世界の健康未来を切り拓く、革新的な研究、新事業の創出にデータが研究を世にできる魅力的な地域に昇格レベルに押し上げていく」と力を込める。

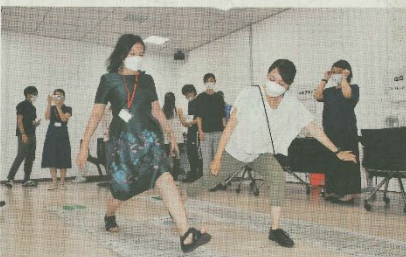


「健康に関する山」と称される健康ビッグデータを測定する岩木健診

ノウハウ凝縮「QOL健診」



子どもたちの健康意識を高めるQOL健診—2025年2月



QOL健診を世界へ。ロコモに関わる歩幅の測定を体験するベトナムの医療関係者—2023年7月



肌の潤いやハリ、色などを測定する岩木健診の養生室コース

岩木健診で培ったノウハウを凝縮して弘前大が独自開発したのが、健診後の行動変容を旨とした新健診モデル「QOL健診」だ。

「メタボリックシンドローム」「ロコモティブシンドローム」「口腔保健」「うつ病・認知症」の四つのカテゴリから成り立つプログラムで、検査は約40項目。健診結果を健診終了後すぐに受診者にフィードバックす

ることで行動変容につながる。子どもたちの健康意識の向上を図るため、子ども版も制作した。県内の自治体、企業で

の活用はもう一歩、参画企業の明治食品などの協力で企画で展開されている。また、ベトナムやフィジーからの医師にノウハウを伝えるなど、世

界での評価も目指している。日常生活の中で健康への気付きにつなげるよう、グラフィックデザインとDX（デジタルトランスフォーメーション）を駆使して、世

界での評価も目指している。日常生活の中で健康への気付きにつなげるよう、グラフィックデザインとDX（デジタルトランスフォーメーション）を駆使して、世

界での評価も目指している。日常生活の中で健康への気付きにつなげるよう、グラフィックデザインとDX（デジタルトランスフォーメーション）を駆使して、世

界での評価も目指している。日常生活の中で健康への気付きにつなげるよう、グラフィックデザインとDX（デジタルトランスフォーメーション）を駆使して、世